化学工学会第 41 回秋季大会（広島大学）における、「若手・中堅研究者懇親・講演会」の実施について（第 1 回中四国若手 CE 企業教員勉強会）

【開催日】9月16日（水）：18：00～20：30（大会初日）
【場所】広島大学東広島キャンパス内 リーガロイヤル La Boheme
【主催】中四国若手CE
【共催】中国四国支部，東北支部，関東 CES21(関東支部)，P&D 委員会(東海支部)，CES21(関西支部)，Q-NET(九州支部)
【参加費】3000円
【参加者数】16名
【趣旨】本会は各支部の若手・中堅研究者を中心とする組織が共同で開催する企画です。産学官の若手・中堅研究者を対象としており，今回，中国四国支部　中四国若手CEにて，招待講演を含む2件の講演を実施致します。形式にこだわらず，フランクに議論し，お互いの交流を深めつつ互いに向上することを趣旨としております。

【実施内容】
講演１：【招待講演】有機半導体の魅力と課題　　（司会：広島大学　木原伸一）
広島大学大学院工学研究科物質化学システム専攻教授　瀧宮和男　氏
講演２：界面を操って材料を作る液相プロセス　　（司会：広島大学　後藤健彦）
岡山大学大学院　環境学研究科　准教授　小野努　氏　（中四国若手CE次期代表）

・本会は、各支部の若手・中堅研究者を中心とする組織が共同で開催する企画である。今回、中四国若手CEが主催するにあたり、中四国若手CEの「企業＋若手教員の会」の第1回勉強会として位置づけ、中四国の企業の方を中心に参加を募り、「勉強会メイン」としてそれぞれの向上と「交流」を目的に実施した。本勉強会では、新しい取組やホットな情報として講演を依頼した・講演概要は次の通りである。

（講演１）　半導体を利用したトランジスタの基本的な性質とそれを有機物で開発する意義を説明いただき、瀧宮先生らが開発した有機材料を用いてトランジスタ性能を評価結果について報告された。また、有機EL素子を開発するための有機物についても説明があった。製品開発におけるデスバレーの克服の難しさや表示用ディスプレイに関するNEDOのロードマップの検証例等も報告された。
（講演２）　界面特性を液液、液固界面の特性をどのようにプロセスでコントロールする

かについて、小野先生らが検討している方法について説明がなされた。マイクロ流路をうまく使って、分子構造が調整された分子を用いたミセル界面制御の方法などについて多数の実施例が報告された。

講演会の様子を以下の写真に示す。

(a)

(b)

(c)

(d)

写真　(a) 受付の掲示板、(b)　会場の全体の風景、 (c) 瀧宮先生による講演の様子、(d) 小野先生による講演の様子

【運営に関する情報】

・講師２名を含み参加申込は 21 名であったが当日キャンセルが 3 名有り 18 名（大学 14（学生 1)、企業 4 名）の参加となった。中四国地区以外からの参加者は半数の 9 名（大学 6 企業 3）であった。(別紙　参加者リスト)

・ 事前準備は、5 月初旬から会場の予約、講師の依頼を行い、化学工学誌第 7 号の大会会告に間に合うように詳細を決定し、e-mail にて参加申込を募った。(申込締切:9 月 9 日、定員：48 名)

・ 9 月 1 日に中四国若手の会のメーリングリストを使って参加者を募った以外には、特に

積極的な募集は行わなかったが、締切日までに 17 名の申込を受けた。

・ 当日は、広島市内に宿泊していた参加者も含めて、時間いっぱいの 8 時 30 分過ぎまで、活発な質疑応答があり、有意義な会合となった。

・ レストランに支払った飲食代と当日徴収した参加費との差額と招待講演講師への謝金が中四国若手 CE の負担となった。（別紙会計報告）

以上